

ある日の育児日記から

(93)

佐藤 和代



そこで仕事は早めに切りあげ、本屋さんで好きなマンガを買って、そのあとチョコパフェ食べにくいこ、ということに。これが圭の「スペシャルデー」になりました。圭とのデート、お母さんも楽しかった。有には内緒ね！

有の保育園では、年長組はお泊まり保育があります。それも、全員リュックしよって御岳山に登り、山の民宿で一泊、という本格的なもの。有は無事に行けるかな？予想通り、お泊まりなんてやだ、お母さんがいないと眠れない、とごねてはいました。が、経験者の圭に「すっごく楽しいよー」「これに行かないと一年生になれないんだよ」と力説されて、しぶしぶ出かけていきました。

さて、金曜日に出発して、次の土曜日の朝。私「今日は午前中仕事して、お昼から買い物物に行って、それから有の迎えに…」と予定を話して

いたら、急に圭が泣き出したのです。どうしたの？圭は泣きじゃくりながら言いました。「せつかく、せつかく、有がないのに、圭はまだ何もしてもらってない」……あー、そうかあ。圭にとつては、有のお泊まり保育は「有のいない日」というスペシャルデーを意味していたんだ。それであんなにがんばって有を説得してたのね。

